



市大キャラクター
『ヨッチー』

認証評価で適合認定。横浜市立大学が高く評価される!

横浜市立大学は、学校教育法 109 条に基づき、大学機関別評価を平成 27 年度に受審。このたび大学評価機関である**独立行政法人大学評価・学位授与機構**（※1）により「基準を満たしている」と認められ、複数の分野で高い評価を受けました。

1. 認証評価制度とは

概 要 国公私全ての大学、短期大学、高等専門学校が文部科学大臣の認証を受けた評価機関の実施する評価を 7 年以内ごとに受けることが義務付けられた制度。

目 的

- ・大学等の質を保証する
- ・評価結果が公表されることにより、大学等が社会による評価を受ける
- ・評価結果を踏まえて大学等が自ら改善を図る

2. 今回の受審概要

受審内容 認証評価および選択評価(A 研究活動・B 地域貢献活動・C 教育の国際化)

期 間 平成 26 年 9 月 評価機関選定。大学評価・学位授与機構へ受審申請
平成 27 年 6 月 自己点検評価報告書の提出
平成 27 年 11 月 訪問審査
平成 28 年 3 月 評価結果の確定、公表

3. 認証評価結果のまとめ

横浜市立大学は、大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている。

「選択評価事項A 研究活動の状況」「選択評価事項B 地域貢献活動の状況」において目的の達成状況が良好であり、「選択評価事項C 教育の国際化の状況」においては目的の達成状況がおおむね良好である。「国際的な教育環境の構築」「国内学生の海外派遣」については一般的な水準を上回っている。

窪田吉信（くぼたよしのぶ）学長コメント

認証評価は、本学が今まで取り組んできた取組を総点検し、外部の方々から評価コメントやご意見をいただくことのできる絶好の機会と考えています。今回、私どもの取り組みが「基準を満たしている」と認定され、様々な点で評価いただいたことに心より感謝いたします。

評価いただいた内容を本学の強みと捉え、さらに高みを目指すとともに、指摘された内容については真摯に受け止め、十分に協議を重ねながら改善に取り組んでまいりたいと思います。

お問い合わせ先

教育推進課長

田澤 紫乃

Tel 045-787-2422

裏面あり

※「主な優れた点」 （一部抜粋）

教育（国際化含む）

- 「**教養ゼミ**」（※2）は学部異なる学生が1つのクラスで学ぶ特徴的な授業科目であり、授業担当教員が担任となり、学習の相談以外にも、学生生活、キャリア形成に関する指導助言を行っている。
- （医学研究科博士課程）がんの根治を目指す高い意識を持ち、最先端のがん治療技術を提供できるような「がん医療人」を養成している。
- 英語科目「**Practical English**」（※3）を必修化することにより、学生全般の実践的な英語力の引き上げを実現し、より高度な英語力を身につける授業科目「**Advanced Practical English**」を設置している。
- 国際的な視野を持った人材育成の一環として、教員が学生を引率して渡航する「**海外フィールドワーク**」（※4）で、毎年200人以上が大学による経済的支援を受けて参加している。
- 国際機関等の協力を得て、主にアジアの各都市が抱える問題や課題の解決を目指す**アカデミックコンソーシアム（IACSC）**（※5）を創設し、都市の抱える課題「環境」「まちづくり」「公衆衛生」等の解決に向け、取り組んでいる。

研究

- 世界で初めて iPS 細胞から血管構造を持つ機能的なヒト臓器の原基を創り出すことに成功した。
- がん研究において、医学研究科の教員が文部科学省新学術領域研究計画班研究代表者として、主要な国際学術雑誌に成果を報告しており、併せてベンチャー企業との共同研究で転写因子の活性を制御する化合物の同定を進めている。

学生支援

- 卒業（修了）生が在学学生を支援する「**キャリアサポーター制度**」（※6）や、内定者が在学学生を支援する「**キャリアメンター制度**」（※7）が整備され、「キャリアサポーター制度」の登録数が1,000名を超えている。
- ボランティア支援室を開設し、大学のボランティア窓口を一本化することで、大学の特色を反映させた独自プログラムを学生に提供している。

地域貢献

- 高等学校との連携事業として、横浜市教育委員会と協定を締結し、連携講座を実施しているほか、市立及び県立高校への当該大学教員による講座の実施、高校英語科教員の教育力向上等に積極的に取り組んでいる。
- 看護学科では、横浜市教育委員会と連携し、横浜市内小・中学生を対象とした職業体験「子どもアドベンチャー」を実施しており、将来医療従事者を目指す子供たちに貴重な体験を提供している。
- 自治体、地域団体等から提案された課題に対する教員の活動を公募し、採択された活動に助成金を支給することで、地域課題の解決を目的とする調査、研究等の取組を推進している。

※「主な改善を要する点」

- 大学院課程の一部研究科において、入学定員超過率が高い、または入学定員充足率が低い。
- 卒業（修了）後、数年経過した卒業（修了）生に対する意見聴取が組織的に行われていない。
- 教員個人や研究室ごとで発表した論文、著書及び研究発表の件数等、研究活動の状況を把握する全学的な体制が十分ではない。
- 外国人学生の受入は、戦略的な取組が不足しているため、近年、減少傾向にある。
- 教育の国際化に関して、学内の取組状況を組織的に自己点検・評価の上、その評価結果をフィードバックするための取組及び体制が十分とはいえない。

※1 独立行政法人大学評価・学位授与機構（平成28年4月～ 大学改革支援・学位授与機構）

「大学等の評価、学位授与、質保証連携及びこれらに関する調査研究の業務を通して、我が国の高等教育の質の向上を支援し、もって我が国高等教育の発展に寄与する」ことを目的に平成3年に設置された機構であり、主な業務として大学等の教育研究活動等の状況について評価を行っている。平成27年度は、横浜市立大学を含む全国33大学が当該機構の認証評価を受けており、その評価結果は機構のウェブサイトに掲載されている。

文部科学大臣から認証された大学の評価を行う機関としては他に、公益財団法人大学基準協会、公益財団法人日本高等教育評価機構がある。

※2 教養ゼミ

横浜市立大学学部生が全員必修の授業科目。学部を越えて様々な志向性を持った学生が1つのクラス（約30名）で学び、専門分野が異なる2人の教員が担当する1年前期に行うゼミナール。学生はこういった環境により広い視点や多様性を身につけていく。

また、担当教員は担任となり、学習の指導だけでなく、必要に応じて学生生活やキャリア形成に関する指導助言も行う。

※3 Practical English

大学における知的活動を英語によって行えるレベルのコミュニケーション能力を身につけ、学生それぞれの専門分野を学んでいくためのスターティングポイントに立つためのプログラム。

到達度を客観的な基準で測るため、TOEFL-ITP 500点相当（TOEIC600点、英検準1級相当）を進級要件としている。（国際総合科学部3年次、医学部医学科2年次）

※4 海外フィールドワーク

国際的な視野を持った人材を育成するための授業の一環として、教員が学生を引率し、海外での実践的な教育活動を実施。大学として学生の海外派遣を推進すべく経済的支援を行っている。

平成27年度は、13か国へ222人の学生を派遣した。

※5 アカデミックコンソーシアム（IACSC）

アジアを中心とした都市および大学とともに国際機関等と連携しながら、「環境」「まちづくり」「公衆衛生」の3テーマで活動を展開し、毎年、総会および国際シンポジウムを開催し。持続可能な社会のために都市問題を解決し、地域や世界に貢献することを目指す大学間ネットワーク。

※6 キャリアサポーター制度

本学の卒業（修了）生が在学生のキャリア・就職支援を行う制度。キャリアサポーターは登録制で、現在1,000人を超える卒業（修了）生が登録している。キャリアサポーターには直接学生が連絡することができ、職場の雰囲気や仕事内容、就職活動時のエピソードなど、先輩の本音を聞くことができる。年に1回「キャリアサポーターと学生の集い」と題した交流会も実施しており、毎年約100名のサポーターと約200名の在学生が参加して、好評を得ている。

※7 キャリアメンター制度

就職内定を獲得した学部4年生（修士2年生）が、就職活動を控えた学部3年生（修士1年生）の就職活動を支援する制度。これから就職活動をする学生は、内定した先輩から就職活動のノウハウや情報を得ることができ、支援する4年生（修士2年生）は、社会人として役立つリーダーシップやコミュニケーション能力を磨くことができる。